



校庭の緑が鮮やかさを増し、夏の訪れを実感する日々です。コロナ禍の中でさまざまな制限はありますが、生徒たちは今の状況で自分たちにできることを考え、実行に移し始めています。

イースタービレッジにマスクを!

イースタービレッジ・ミンダナオを支える会の呼びかけに賛同した高校2年生が、学校でもマスクの寄付を呼び掛ける活動を始めました。イースタービレッジとはフィリピンのミンダナオ島にある児童養護施設です。

今年初め実際にフィリピンを訪問しイースタービレッジで現地の子どもたちと交流したこの生徒は、マスクの供給不足と外出もままならない現状を知り、行動を起こすことにし、放送朝礼で全校生徒に呼びかけました。



「イースタービレッジの子どもたちからたくさん助け合いを大切に、今度は私たちがマスクを届け感染拡大防止に役立ててほしい」と意気込んでいます。

国連研修6期生アクションプラン

6月23日(火)、今年2月のNY国連研修に参加した国連研修6期生の高校2年生は、「高校生として今できること」を考え、アクションプランを策定しています。

先日、札幌国際プラザの「新型コロナウイルスの影響で困窮する在日外国人支援～いまでできることプロジェクト」を知り、6月16日から皆に呼びかけました。短期間でしたが500点を超える食料品が集まり、寄付金も寄せられました。代表生徒が留学生交流センターにうかがい、お渡ししました。



7月の予定

	行事	お弁当
1(水)	課題研究ミーティング①「ヒグマ講座」	要
2(木)		要
3(金)		要
4(土)	姉妹会総会(3校時、放送) 母の会 中高制服販売(11:30~12:00) 父の会 聖書サークル(16:00~17:30)	不要
5(日)		
6(月)		要
7(火)	母の会聖書サークル(10:30~、Sr.田口) 白樺会役員引継会 中学校教員対象学校説明会(カーテンハルス)	要
8(水)	梅干し弁当	梅弁
9(木)		要
10(金)		要
11(土)	母の会 中古制服販売・パン販売(11:30~12:00)	不要
12(日)		
13(月)	前期中間考査 高校①/中学①	不要
14(火)	前期中間考査 高校②/中学②	不要
15(水)	前期中間考査 高校③/中学③	不要
16(木)	前期中間考査 高校④/中学特別プログラム 中1・中3 試験返却 中2 千歳川清流下り	不要
17(金)	試験返却 宗教講演会(中・高別)	※
18(土)	高校 試験返却 中学 通常授業 高3対象 聖心女子大web説明会 寄宿サマプロ	不要
19(日)		
20(月)	特別時間割(午前授業~7/30)	不要
21(火)	放送朝礼 母の会聖書サークル(10:30~、Sr.井出)	不要
22(水)	校内漢字コンテスト①(1校時)	不要
23(木)	海の日(午前授業) 高3 保護者懇談会(午後)	不要
24(金)	スポーツの日(午前授業)	不要
25(土)		不要
26(日)		
27(月)		不要
28(火)		不要
29(水)		不要
30(木)	全校講話「SNS利用について」(中・高別)	不要
31(金)	終業日 寄宿生帰省日	不要

※ 中学生は午前授業です。高校生は昼食をご用意ください。

今月の聖句

わたしたちは、この希望によって 救われているのです。

ローマ人への手紙 8章24節

様々なコロナ感染症対策を講じての授業再開もすでに1ヶ月を過ぎました。制約はあるにせよ、学校生活を送ることが出来るありがたさを感じる日々はまた同時に、予定の定まらない不安の時期でもあります。コロナ禍の拡がりとともに世界も不安に閉ざされています。

しかし、暗闇に明かりをともすのは、このコロナ禍において一層頼もしさを発揮する生徒たちです。4月に手作りのマスクを寄付した生徒のニュースに始まり、様々な制約や行事の中止を受け止めて、積極的に学校生活や寄宿生活に取り組む姿。フィリピンの養護施設のためにマスクを集め、困窮する在日外国人支援を全校に呼びかけて食料や寄付を集めて届けた生徒たちの「学びが他の方を想う行動につながり、呼びかけて支援の輪が拡がり、うれしい限りです。」という言葉。

世界の難民が過去最大の7950万人になったことに衝撃を受け、楽しく寄付が出来る独創的な「世界難民の日プロジェクト」を企画した生徒たちの呼びかけ。

5月に、深夜に及ぶオンラインの国連セミナーに参加した生徒たちは、バングラディッシュの医師の発言がご縁となり、東京大学の先生から「いのちと女性、地球を考える～母乳育児と環境問題」というオンライン授業を受けることができました。取材に見えた新聞社の方は、「こんなに積極的に自ら学び、考える高校生にとっても感銘を受けました。」と感心されました。



アメリカ領事館主催の人種問題についてのオンラインワークショップに参加して、「差別をなくすために何ができるか」を国内外の大学生や高校生と話し合い、意見を分かち合って考える生徒たち。

宗教のノートに書かれた「自分の欲だけを追うのではなく、周りの気持ちになって考えてみることで、見える世界が変わり、周囲に対する自分の態度や感情も、良いものへと変えていけるのではないかなと思う。」という生徒の言葉に世界を変える力を感じます。

「コロナ禍の後にどんな世界が広がるのか」という不安を吹き払うのは、このような生徒一人ひとりの言葉や行動にあらわれる希望です。私たちはこの希望によって救われているのです。

[担当：チャプレン Sr.田口保子]